

## 第2学年D組 国語科学習指導案

授業者 碓氷愛実

## 1 単元名・教材名

「表現の効果を考えて随筆を書こう ～言葉で飾る生活のひとコマ～」  
 ○構成や展開を工夫して書こう (『国語2』光村図書)

## 2 生徒の実態と本単元の意図

## (1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 〔思考力, 判断力, 表現力等〕	学習内容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する 他領域等の指導
・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。(中1 B(1)オ)	・根拠の明確さ ・自分の文章のよい点や改善点	「根拠を明確にして書こう～わたしに身近な不利益～」 (1年・2月)	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。〔知識及び技能〕中1(1)ウ

## (2) 生徒の実態と本単元の意図

生徒は1年次に「不利益にまつわる意見文を書く活動」や「自分の経験を物語として書く活動」などによって書くことの資質・能力を高めてきた。しかし、推敲時や単元の振り返りの中で、推敲時のねらいや自分の文章で工夫した点について尋ねると、「なんとなくこっちはほうが良いと思った」や「全体的にまとまりをもって書けた」など、大掴みで、単元のねらいに沿っていない記述である生徒が多くみられ、自らが文章を書く上で試行錯誤したことや気を付けたことが自覚できていないことが分かった。

第2学年〔思考力, 判断力, 表現力等〕B(1)オでは「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すこと」が求められている。また、第2学年の「B 書くこと」の指導事項のウ・エ・オ、「C 読むこと」の指導事項のエに共通して「表現の効果」という言葉が登場することから、文章を読むことを通して身に付けた表現の効果を、書くことで生かすという学習の系統性や、ただ単に表現技法等を用いて書くのではなく、自分の伝えたいことが伝わるように意図をもって、その意図が達成できているか効果を確かめながら書くことが第2学年の学習では重要視されているといえる。

そこで、本単元では、表現を工夫し、その効果を考えながら随筆を書く活動を設定した。学習の系統性を意識して、本単元に至る前に「表現の効果」に主眼を置いた単元を2つ実施している。1つ目は「表現によって変わる物語の印象を楽しもう」(〔思考力, 判断力, 表現力等〕B(1)ウ)で、故事成語のもとになった簡単な物語をもとに、表現を工夫してリライトする言語活動を設定した。同じ物語の内容でも、表現を変えるだけで印象が異なることを生徒は実感することができた。2つ目は教科書教材『アイスプラネット』を用いた「物語を読んで、表現の効果について考えよう」(〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(1)エ)で、作者のインタビュー記事等から、作品に込められた作者の意図を捉え、その意図を伝えるために表現がどのような効果をもっているのかを考える言語活動を設定した。教科書教材のような洗練された文章は、作者の意図に沿って表現が緻密に計算されていることに気付くことができた。

随筆は、自分の見聞きしたことや考えたことなどを形式にとらわれず書くことができるため、上記のような学習で得た表現の工夫を制約なく駆使することができ、作者の個性を発揮することができる形式の文章である。今までの学習を生かして、自分自身の見聞きしたことを言葉で豊かに表現し、読み手である友人との交流を通して、自分の文章の良い点や改善点を見つけ、日常や授業での書く活動に自信をもって取り組めることを期待する。

## (3) 挑戦心を高め、思考を深める協働的な学びのデザインに関連して

## 【手立て1】困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設定

本単元では、単元内で随筆を2作品書く。従来、書くことの学習では、1単元につき1つの作品を書き上げることが多かった。題材選び、下書き、下書きの交流、清書、完成作品の交流という学習の流れの中で、下書きの段階で時間がかかり、下書きの交流の際には、助言がもらえる段階まで達していないような状況の生徒もいる。完成作品を読み合う段階で、友人の作品を読んで自らの作品の改善点に気付き、自信を失ったまま単元を終えることも少なくない。今回は当該単元の授業時

間に余裕をもたせ、宿題として下書きを書く時間も確保する。教科論でも述べているように、生徒にとって当初は2作品書きあげるとは至難の業のように感じるが、1作品目で随筆を書くコツをつかみ、友人の作品に刺激を受けてからであれば、2作品目を書くことは比較的容易であることに気付くであろう。完成作品を読み合う際に生まれる「こう書けばよかった」という後悔を、次時に生かせるような授業構成になっている。

【手立て2】教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て

コラボレーションアプリを用いた交流場面を設け、書くプロセスの要所に生徒同士や教師とのやりとりを組み入れていく。アプリの課題機能では、リアルタイムで生徒の記述が確認できるため、教師の即時的な支援が可能である。また、5時間目の交流の際には、1作品目の生徒の書きぶりを参考に、交流相手を自ら選択できるようにする。随筆には多様な文体があるため、自分の書きたい文体等で書いている友人に自らの作品への助言を受けることで、自分のねらい通りの文体にするための方法知を得ることができる。このような学習活動を通して、個では到達できなかった学びを得たり、自らの文章のよい点を見出せたりすることを期待し、次の書くことの学習にも「挑戦しよう」とする生徒を育成したい。

3 単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (知識及び技能) (1)エ
- (2) 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。 (思考力, 判断力, 表現力等) B(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力, 人間性等)

4 本単元における言語活動

読み手からの助言を踏まえ、表現を工夫し、その効果を考えながら随筆を書く活動。

(関連：言語活動例ウ)

5 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ	①「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出している。(B(1)オ)	①積極的に、表現の工夫とその効果などについて考え、今までの学習を生かして随筆を書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全6時間) (.....「挑戦心を高め、思考を深める協働的な学びのデザイン」を特に意図した場面)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1 ・ 2	○単元の課題を知り、学習の見通しをもつ。	○学習課題 ○学習の進め方	
	<b>表現の効果を考えて随筆を書こう</b> ～言葉で飾る生活のひとコマ～		
	○著名人や教員の書いた随筆を読み、随筆の特徴や表現の工夫について考える。 ・作者名は伏せ、どのような人物が書いているかをイメージする。	○随筆の特徴 ○表現の工夫	取り上げる随筆 ※ () 内はその作品の特徴 『デラックスじゃない』マツコ・デラックス (文末表現)・『どのみちべっこり』飯尾和樹 (自分へのツッコミ・シュールな言葉)・『村上ラヂオ』村上春樹 (洗練された表現)・『もものかんづめ』『もものいきもの図鑑』さくらももこ (同一作者のギャップ)・『三谷幸喜のありふれた生活 11』三谷幸喜 (機械の擬人化)・教員の書いた随筆
	予想される随筆文の特徴や表現の工夫 【内容面】・作者の経験とそこから考えたこと ・日常の些細な出来事 ・作者の性格の反映 【形式面】・豊富な表現技法 ・比較的くだけた言葉 ・オノマトペ ・文末の工夫		

	<p>○「随筆タイプチャート」を用いて、書きたい題材を決める。</p> <p>○これまでの書くことの学習を想起し、随筆の下書きを文章作成ソフトで入力する。</p> <p>・この段階では、事物の描写の仕方、表現の技法、語句の用法などにこだわらずに下書きを完成させる。納得のできていない部分には、その旨を記録しておく。</p>	<p>○題材の決め方</p> <p>○情報の整理の仕方</p>	
3	<p>○グループで互いの下書きを読み合い、事物の描写の仕方、表現の技法、語句の用法について助言し合う。</p>	<p>○思いや考えが伝わる表現の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・婉曲的な表現（情景描写等）</li> <li>・自分のねらう作風に合った言葉</li> <li>・擬態語やオノマトペ</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現①】 下書き・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、書き手の伝えたいことや意図を聞き取り、それに合った表現を単語や文節単位で検討できているかどうかを確認する。また、友人の助言を踏まえて、表現の効果を確かめながら文章を推敲できているかを確認する。</li> </ul>
4 ・ ⑤ 本時	<p>○作品集を読み、気付いたことや次の自分の作品に生かしたいことを書く。</p>	<p>○学びの自覚化</p>	<p>【知識・技能①】 下書き</p>
6	<p>○作品集②を読み、友人の作品や自分の作品の良いところを伝え合う。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>○文章のよい点の見つけ方</p> <p>○学びの自覚化</p>	<p>【思考・判断・表現①】 ノート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、自分の随筆②と、随筆①や友人の作品を比較しながら、自分の文章の表現の特徴を捉えることができているかを確認する。</li> </ul>

生徒の記述の例（一部）

我が家の誕生日祝いは変わっている。※書き出し考え中 誕生日を迎えるだいたいひと月ほど前に、両親から「プレゼントは何がいい？」と聞かれる。わくわくしながらリクエストするが、毎年、希望のものとは違ったものが贈られる。なんで毎回聞くのだろうかと不満に思うこともあるが、両親が選んだプレゼントは、私の一時のブームで欲しがったものよりも、長持ちするものを与えてくれるので、なんだかんだ気に入っている。※具体的なプレゼントの例を入れる？

しかし、今年の誕生日は違った。まず、両親は私に何が欲しいか聞いてくれなかった。それらしくアピールもしたが、まったく気にしてくれなかった。もうプレゼントをもらう年齢でなくなってしまったのかと、少し寂しく感じたが……

生徒の記述の例（一部）

※考え中 誕生日を迎えるだいたいひと月と聞かれる。わくわくしながらリクエストされる。なんで毎回聞くのだろうかと不満に私の一時のブームで欲しがったものよりも、だ気に入っている。※具体的なプレゼント



この唐突な始まり方も「どう変わっているのかな」と気になるので、このままでもよいのでは？ ←



具体的な時期を入れて、季節感をもたせるとイメージがわいてくるかも。 ←  
学校の桜が葉桜になったころ とか。 ←

に何が欲しいか聞いてくれなかった。それなかった。もうプレゼントをもらう年齢で…… ←

○助言を踏まえて、随筆を完成させる。

- 今までの学習を踏まえて、随筆②の下書きを書く。
- 事物の描写の仕方、表現の技法、語句の用法について助言し合う。
- 助言を踏まえて、随筆②を完成させる。

- 思いや考えが伝わる表現の仕方
- ・婉曲的な表現（情景描写等）
  - ・自分のねらう作風に合った言葉
  - ・擬態語やオノマトペ

・ここでは、今までの学習を踏まえ類語辞書等を参照しながら、自分の文章の意図に沿った言葉を吟味できているかを確認する。

【主体的に学習に取り組む態度①】  
下書き・観察

- ・ここでは、必要に応じて、友人の助言を求めながら、表現の効果を確かめて文章を推敲しようとしているかを確認する。

生徒の記述の例（一部）

文章全体のバランスを意識して表現を吟味できたと思う。今までは、「悲しい」を「涙をこらえて」のように部分的に言葉を差し替えていくような感じで書いていたが、それだと文章に統一感がなく、難しい言葉を選んだ時には、そこだけ浮いてしまうということに気付いた。今回は、特に取り上げたい部分に婉曲的な表現を集中させて細かい雰囲気を作ったり、逆に補足……

## 7 本時の学習指導（5／6）

### (1) 目標

- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### (2) 展開

【前時の学習内容】 ○思いや考えが伝わる表現の仕方		
学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>1 本時のねらいを知る。</p> <p>本時のねらい <b>【全体】</b></p> <p><b>友人の助言を踏まえ、表現の効果を考えながら随筆を書こう。</b></p>		<p>○学習の目標を示す。</p>
<p>2 下書きに自分自身が表現で悩んでいるところや工夫したところを記入する。 <b>【個人】</b></p>	<p>○思いや考えが伝わる表現の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・婉曲的な表現（情景描写等）</li> <li>・ねらう作風に合った言葉</li> <li>・擬態語やオノマトペ</li> </ul>	<p>○文章作成ソフトのマーカー機能を活用し、悩んでいるところを黄色、工夫したところを青色で着色させる。その他、作成にあたってのメモは校閲機能や本文に直接書かせる。</p>
<p>生徒の記述の例 ※吹き出し部分が生徒の思考</p>		
<p>「はい、これ」手渡されたのはクリーム色の小さな箱だった。御礼を言うのも忘れ、リボンをゆつくりほどく。中に入っていたのは銀色の腕時計だった。アナログの文字盤がきらりと光り、時を刻んでいた。八月四日の一七時三十二分。今日は私の誕生日だ。</p> <p>我が家の誕生日祝いは変わっている。誕生日を迎えたい日と月ほど前に、両親から「プレゼントは何がいい？」と聞かれる。頭の中のほしいもののリストの中から一つ選んでリクエストするが、毎年、希望のものとは違ったものが贈られる。だって、そんなに毎回聞くのだからと不満に思うこともあるが、両親が選んだプレゼントは、私の一時のブームで欲しがったものよりも、長持ちするものを与えてくれるので、なんだかんだ気に入っている。小学四年生の時にももらったボードゲームは未だ現役で、半年に一度は押し入れから引っ張り出して家族で遊ぶ。</p> <p>しかし、今年の誕生日は違った。両親は私に何が欲しいか聞いてくれなかった。「暑いねえ、もう七月かあ」となんて、それらしくアピールもしたが、まったく気にしなかった。少し寂しく感じた。</p> <p>しかし、ちゃんと両親はプレゼントを用意してくれたのだ。それがこの文章の冒頭である。「今年は何でリクエストしたいか」なんて聞いてみると、母は、にっこり笑って、「今年はいえみの欲しいものをあげたかったから」と言った。確かに、私は中学生になったので、もう少しおしゃれな時計が欲しかったのだ。私に欲しいものを聞いたら、今までの流れで、違ったものをプレゼントしなければいけないからあえて聞かなかったというのだろう。そのちよっとひねくれた感じが私の家族という感じだ。でも、私が時計を欲しがっていたなんて、よく気がついたなあ。「あんたのこと見てたらわかるよ」と得意気にしている母を見て、私もうれしくなった。そんな私の十五歳の誕生日。</p>		
<p>「しかし」が2連続で変。話が冒頭の件に戻ることを言いたいが、直接すぎて気に入らない。</p> <p>長持ちしたプレゼントの例。要らないか？</p> <p>時計は時間を指すものなので、その描写と自分の誕生日を合わせている。プレゼントが誕生日のためであることがわかる。</p>		
<p>3 事物の描写の仕方、表現の技法、語句の用法について助言し合う。 <b>【ペア】</b></p>	<p>○思いや考えが伝わる表現の仕方</p>	
<p>話し合いの様子</p> <p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品①を参考に、自分と似たタイプの随筆を書いている人などに助言を求める。</li> <li>・表現の工夫した点を伝え、自分の意図が伝わっているかを確認する。</li> <li>・表現に悩んでいる部分は助言を受け、推敲する。</li> </ul>		
<p>始めの時計を受け取った場面は、時計をもらった時のうれしさが伝わるように臨場感のある表現を心がけたのだけど、どうかな。</p> <p>確かに。自分では気がつかなかった。3・4段落の「しかし」が続く部分と冒頭である、の表現が気に入らなくて。</p> <p>わかった。その手前と続けて、「少し寂しい1カ月を過ごして迎えた当日、部活から帰ってきた私を待っていたのはあの箱だった。」みたいなのはどう？まとまったかも！</p> <p>とても素敵。ただ、もらった箱が誕生日プレゼントだということが第2段落まで読まないとはっきりわからないので冒頭の「はい、これ」に「プレゼント」というセリフを足すといいのでは？</p> <p>2度目の「しかし」は削除して、冒頭のシーンと繋がるように表現してみたらどうだろう。私の1作目みたいな感じで。</p>		
<p><b>【評価場面】</b></p> <p>＜評価規準＞</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b></p> <p>下書き・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、必要に応じて、友人の助言を求めながら、表現の効果を確かめて文章を推敲しようとしているかを確認する。</li> </ul> <p>＜「努力を要する」状況（C）への手立て＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の文章のねらいや、参考にしている文体を確認させ、似た文体で書いている友人に助言を求めさせる。その助言を踏まえ、推敲の具体例を示す。</li> </ul>		
<p>【次時の学習内容】 ○文章の良い点の見つけ方</p>		